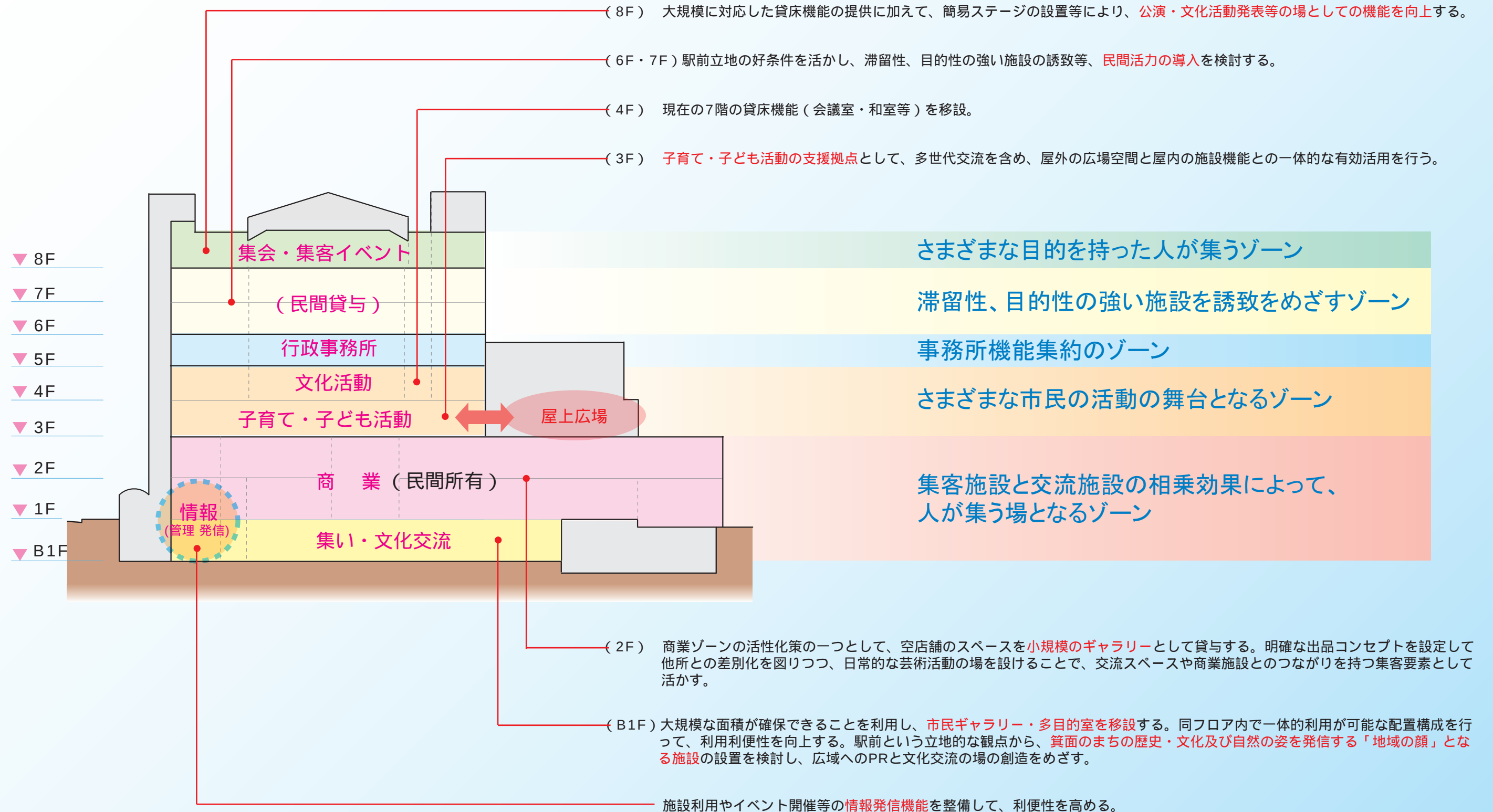


コンセプト

- 多世代が集い、多目的に使える 駅前の集客と交流の拠点 -

各フロアの機能イメージ



郷土資料館移設についての検討

■ 郷土資料館移設の意義

郷土資料館については、箕面駅前という立地性を考慮すれば、来街者・地域住民が行き交う場所の近くに移設することで、**今よりも多くの人々が郷土の歴史・文化に触れる機会を増やし**、「地域の顔」となる交流空間を創り出すという効果があると考えられる。

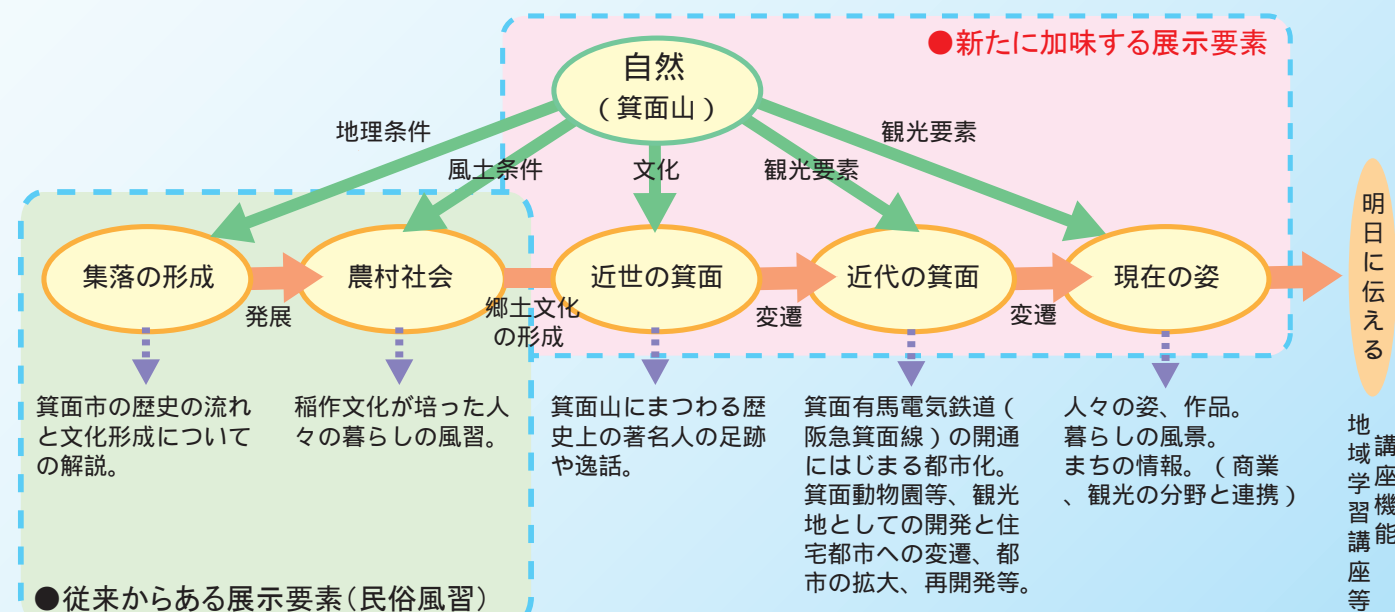
また、箕面駅前の中核施設の個性を強め、中心市街地活性化基本計画における将来像の一つである、「**ふるさとを感じるまち**」の具現化をめざすことにもつながる。

■ 移設についての検討課題と対応方針

ただし、機能の移設にあたっては、下の表に示すような検討課題がある。それぞれについて対応方針を定めた上で、綿密な検討を要する。よって、パブリックコメントの段階においてはあくまで、郷土資料館のみのおサンプラザへの移設を**現時点での最も有力な可能性の一つ**としてとらえる。

	検討課題	対応方針
ハード	- 施設の設置に必要とする空間の確保から、展示、収蔵等主な機能については地下1階への移設となるが、地下1階には市民ギャラリー、多目的室等の機能も移設するため、それぞれの施設について、面積的な制約が生じる。 - 複合施設の地下であり、展示・保管する際には通気、湿気、防災への十分な配慮が必要。	- 郷土資料館の講座室と多目的室の機能を兼用するなど、空間利用の効率化を図る。 - 施設の改修時及び、管理運営の段階において、技術的、設備的な対処を行う。
ソフト	現状の郷土資料の活動は、地域文化の保存と継承が主な目的であり、展示や企画について、必ずしも集客が目的ではないため、高い集客力を持つものではない。	展示内容、方法について、駅前に移設することの意義やコンセプトを押さえ、来街者もターゲットにした付加要素を付加するなど、集客に資する展開を図る。

■ 移設後の展示内容のイメージ



- ・常設展示 ... 体験型の展示装置や空間演出等を用いて、一連の郷土の歴史の流れがダイジェストで分かる順路・空間展示を工夫する。
- ・企画展示 ... 収蔵品の展示。実物資料の展示にあわせて、そこから学習できる知識、情報の充実を図る。

情報発信機能について

■ 新たに加味する展示要素

左下の図に示す「新たに加味する展示要素」は、現在の郷土資料館の展示品には含まれない要素であり、新たな展示品、展示手法、企画展開の検討が必要になる。

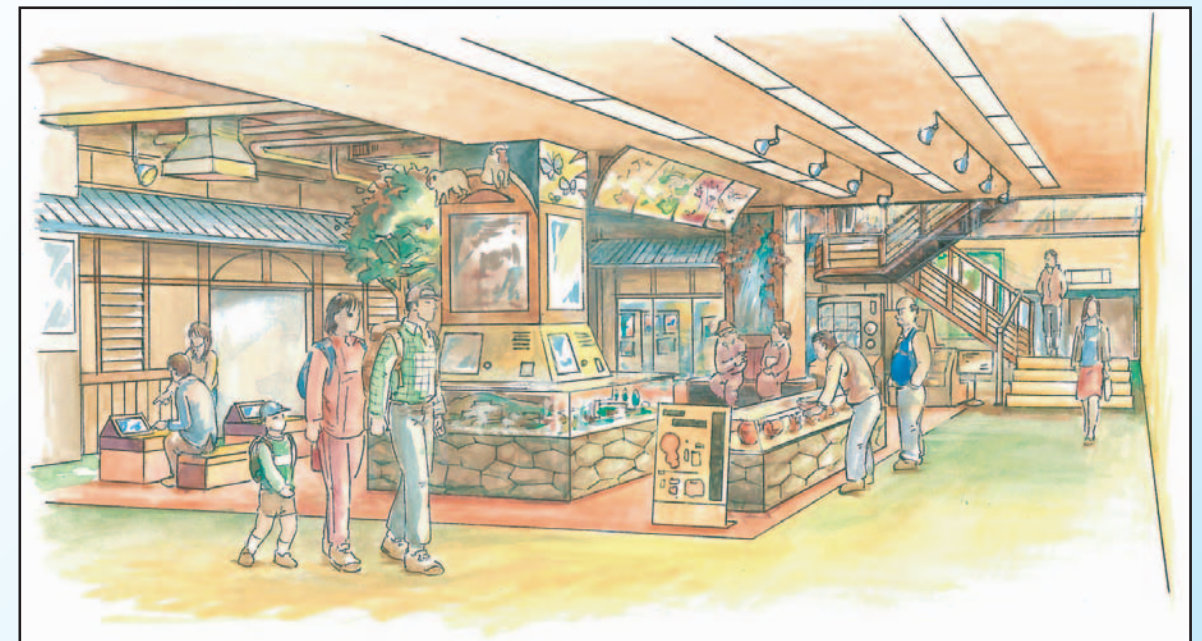
箕面駅前（＝箕面観光の玄関口）という立地性を活かし、地域住民だけではなく来街者もターゲットにした集客と交流の拠点として、地下1階にまちの情報発信機能「**タウンインフォメーションスペース**（仮称）」を設置する。

箕面の観光資源やまちのなりたち、現在の姿を紹介するスペースとして整備することによって、箕面駅前の情報発信機能及び、施設の集客性の向上を図る。

■ 情報発信機能（タウンインフォメーションスペース）のイメージ

例えば、以下に示すような機能が考えられるが、これらはイメージ提案であり、パブリックコメントにおいて市民の方からいただいた意見、アイデア等をふまえた上で、内容を精査し、具体的な方針を定める。

- （例）
- ・年間250万人が訪れる箕面山、箕面公園、滝道を素材として活用し、「箕面の四季」を紹介する。
 - ・箕面の名産品や名所を紹介する。（デジタル情報サービスや体験型展示装置等の活用を検討し、観光案内所とは別の役割、魅力を持たせる。）
 - ・まちの見所等の情報や風景写真等、まちの情報として展示する内容を市民公募で収集し、発信する。
 - ・休憩所機能を併設し、くつろぎながら観て回ることができる空間を整備する。
 - ・イベント等、多目的に活用できるブース（フリースペース）を設ける。



・タウンインフォメーションスペースのイメージ

- ・以上、地下1階には市民ギャラリー、多目的室の機能移設と同時に、タウンインフォメーションスペースの設置を検討する。郷土資料館のみのおサンプラザへの全面移設については最も有力な可能性の一つではあるが、現時点では決定事項ではないため、比較検討資料として、

- ・郷土資料館を全面移設する案（第1案）
- ・郷土資料館を移設せず、フリースペース等の機能を拡充する案（第2案）

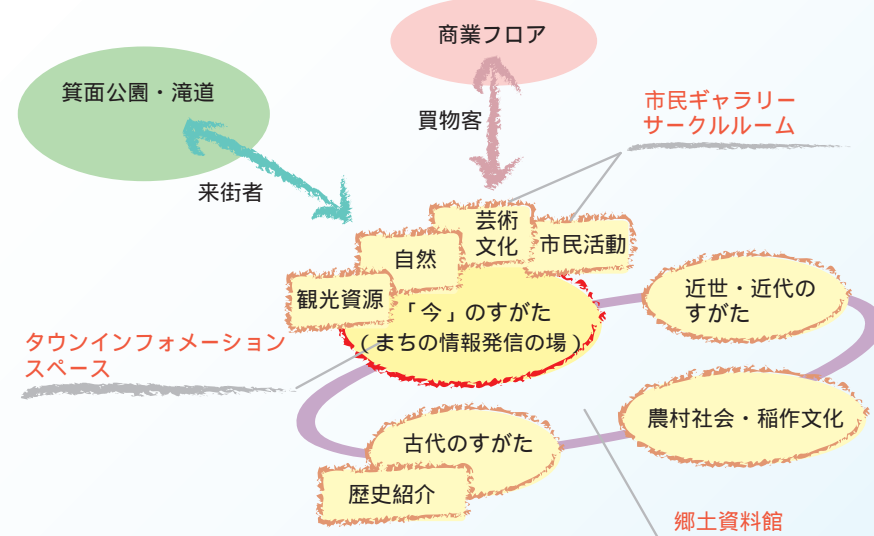
の二つのパターンを提案する。

地下1階に設置する施設のコンセプト・レイアウト案

資料2-3

第1案（郷土資料館を全面移設する場合）

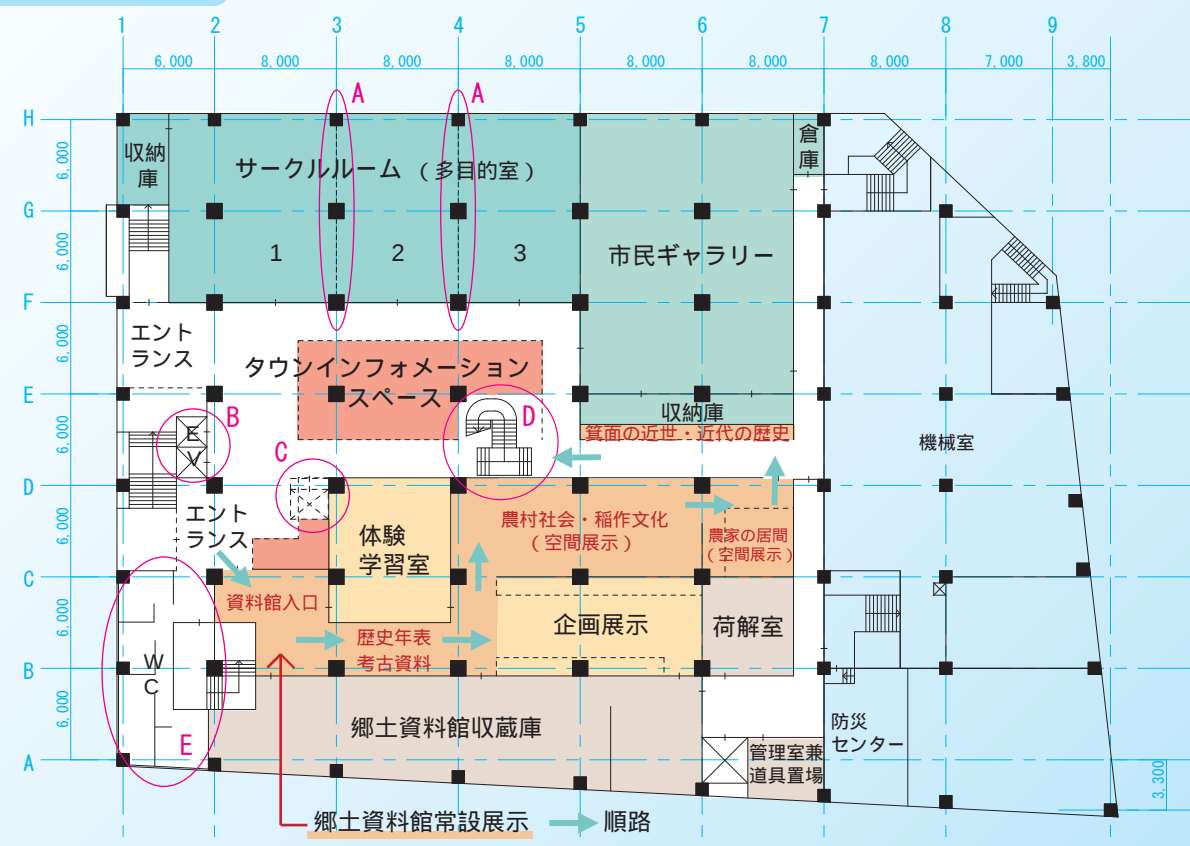
■ コンセプト



- ・地下1階全体を、箕面のまちや市民の今のすがたを含む「郷土のすがた」を集約したフロアとする。
- ・郷土資料館の常設展示スペースは、郷土の歴史の一連の流れが分かる順路・空間構成をとり、「今のすがた」として、「タウンインフォメーションスペース」や市民ギャラリー等を配置する。
- ・郷土資料館の郷土史料（文書）保管、閲覧、研究及び事務機能については、5階の行政事務所フロアに設置する。

■ レイアウト案

1 : 500



● 第1案・第2案共通（A～E） A…可動間仕切

- ・多目的室の機能を「サークルルーム」として確保。間仕切を可動にすることで、多様な規模、用途に対応可とする。

B・C…動線のバリアフリー対応（B・Cいずれか）

- （既設の地下1階～1階のエスカレーターは撤去する）
- ・B…現在1～8階まで昇降している乗用エレベータを改修し、地下1階まで下ろす場合。
- ・C…地下1階～1階にエレベータを新設する場合。

D…階段の新設

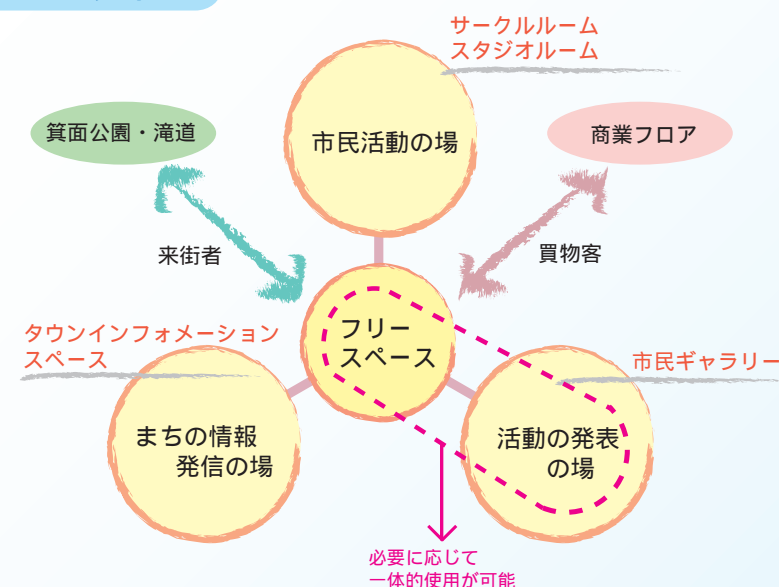
- ・地下1階～1階に階段を新設して、地階の施設と1～2階の商業施設の利用者が行き来できる動線を新たに確保する。

E…トイレのバリアフリー対応

- ・多目的トイレを完備して、バリアフリー対応を図る。また、多数の来客の滞在に対応する規模を確保する。

第2案（郷土資料館を移設しない場合）

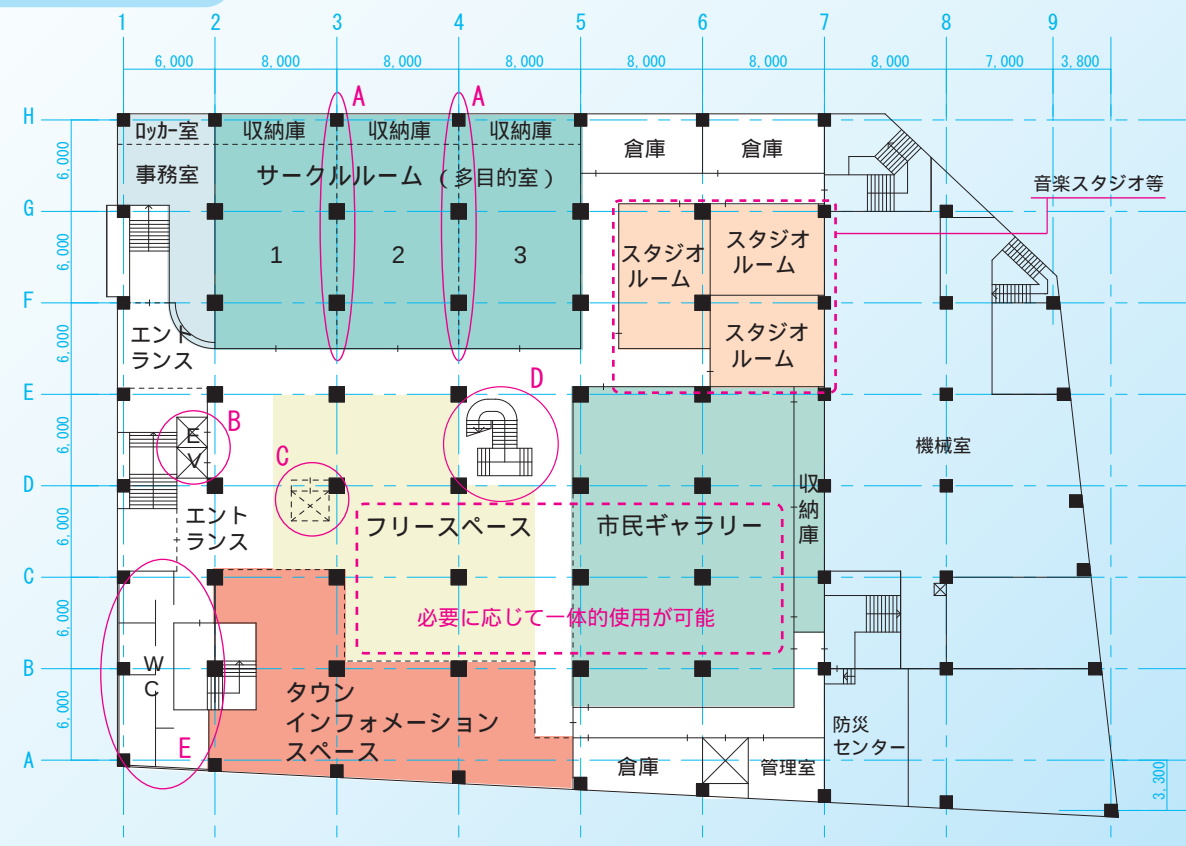
■ コンセプト



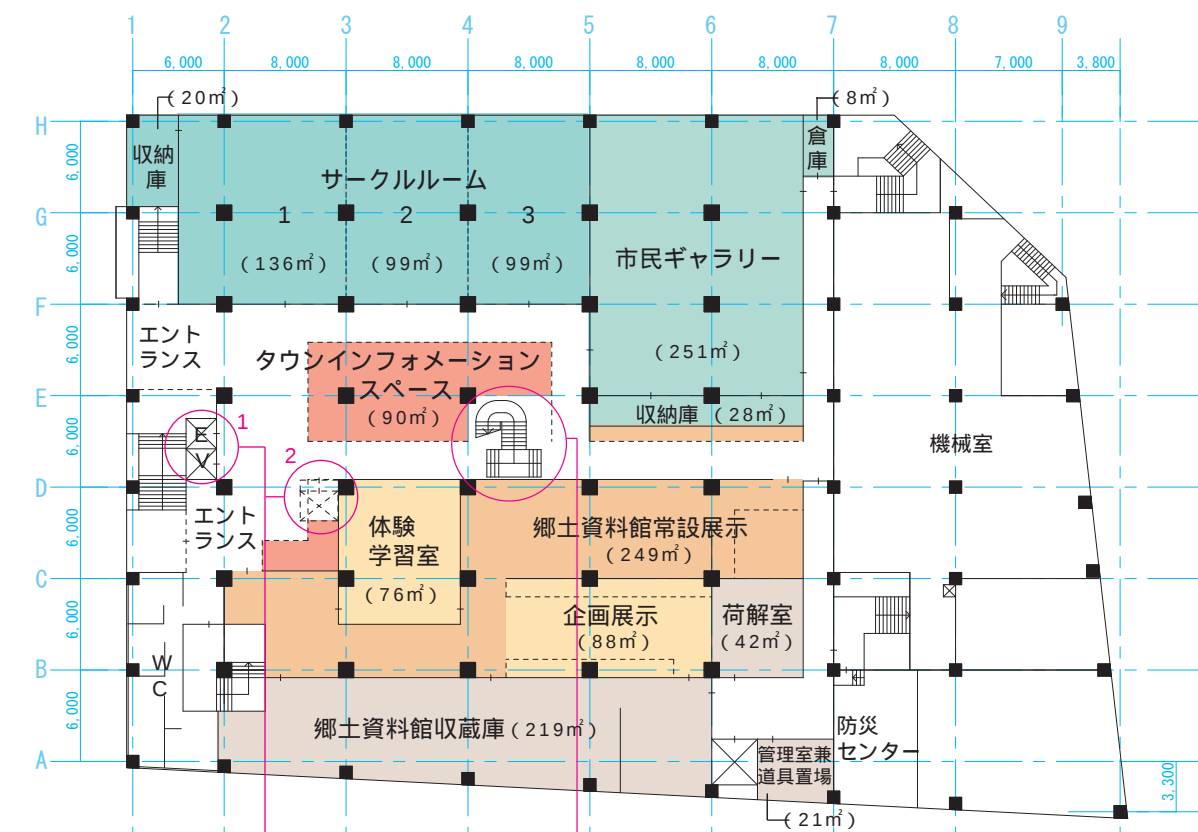
- ・必要に応じて市民ギャラリーとの一体的利用可能な「フリースペース」を設置して、展示即売会やフリーマーケット等、自由に使用できる開放的な空間を確保する。
- ・フリースペースと隣接して、タウンインフォメーションスペースを設置する。
- ・多目的な市民の活動の場である「サークルルーム」の設置に加えて、専門室として「スタジオルーム」を設置する。

■ レイアウト案

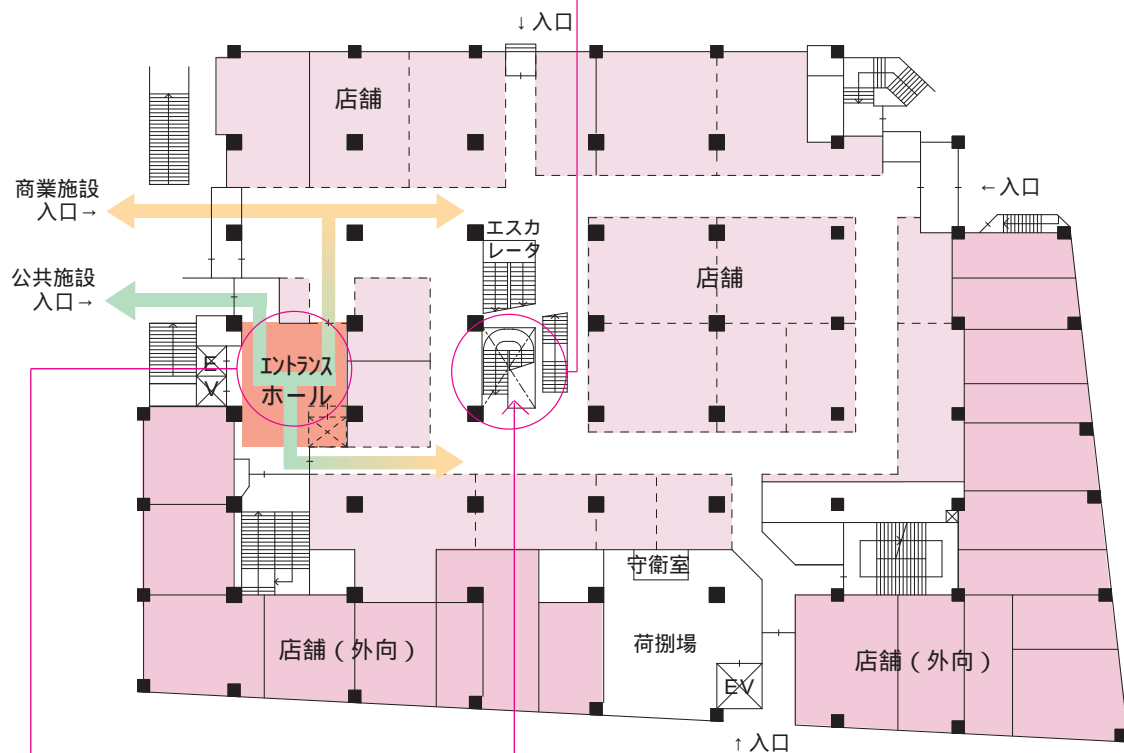
1 : 500



B 1 階



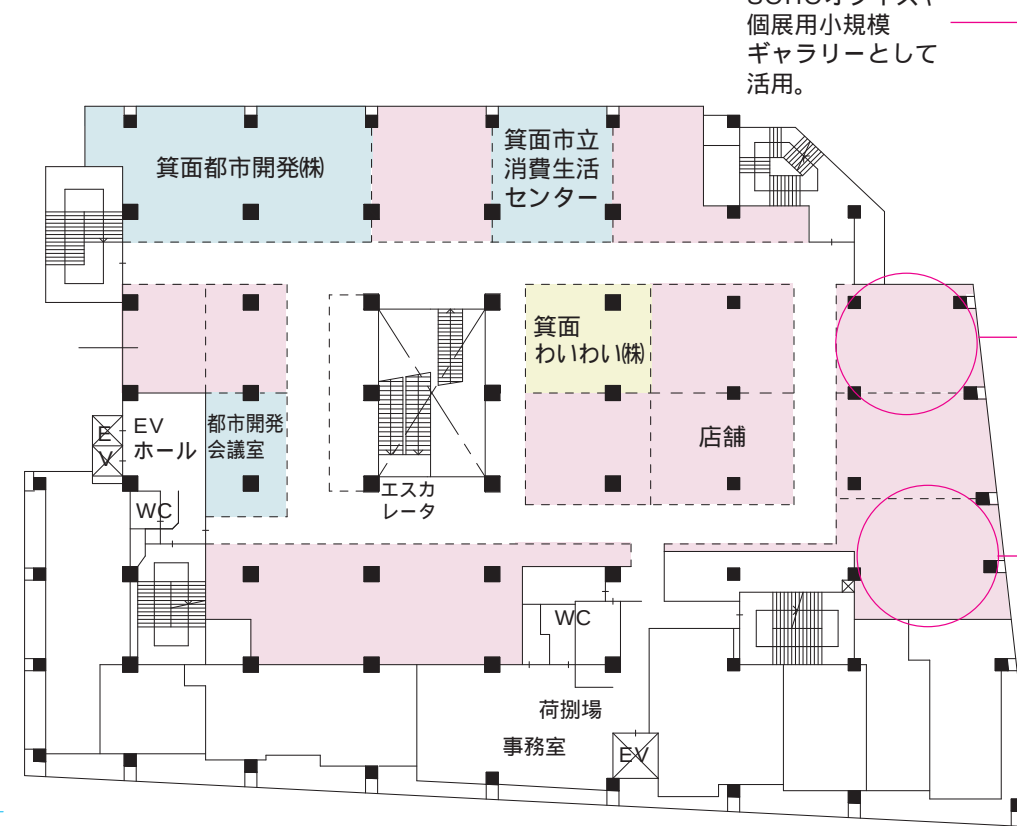
1階



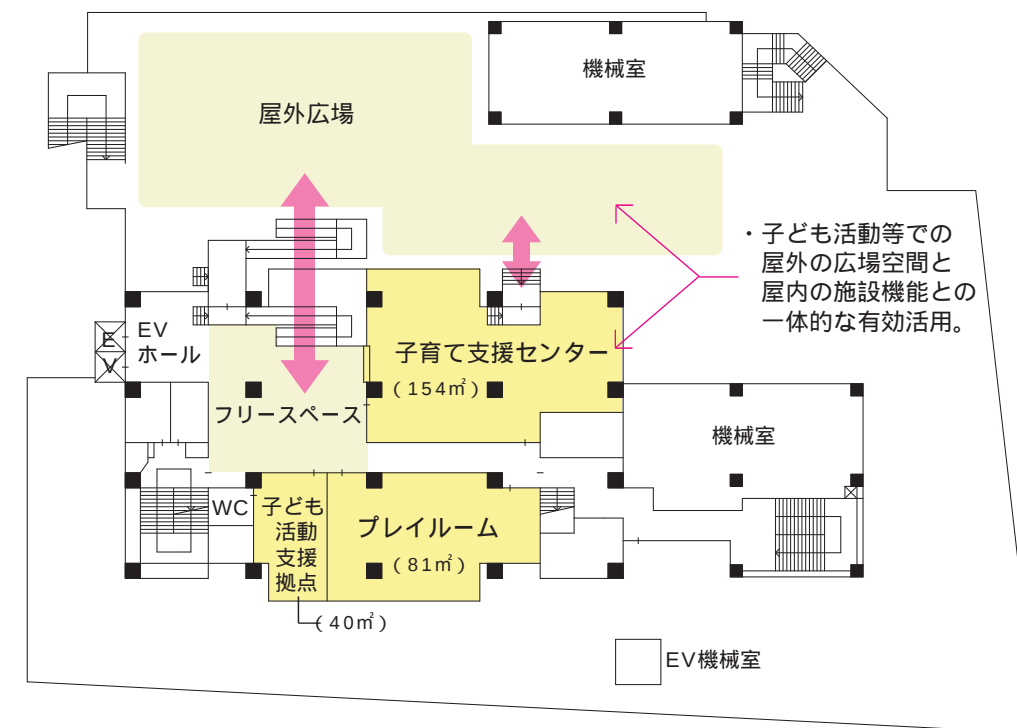
- ・エスカレータを撤去してEVホールを拡張し、矢印のような回遊動線を設ける。ホールには、公共施設の掲示板に加えて商業施設の情報スペースを設ける。

- ・1階～2階をつなぐ既設階段の下部を改修、エスカレータの下に開口を設ける。

2階



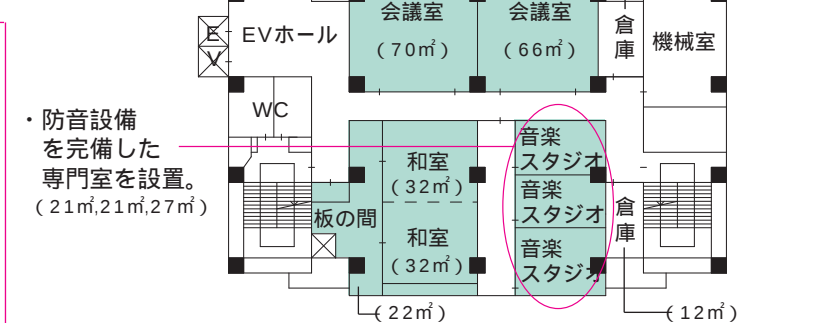
3階



- ・空店舗をSOHOオフィスや個展用小規模ギャラリーとして活用。

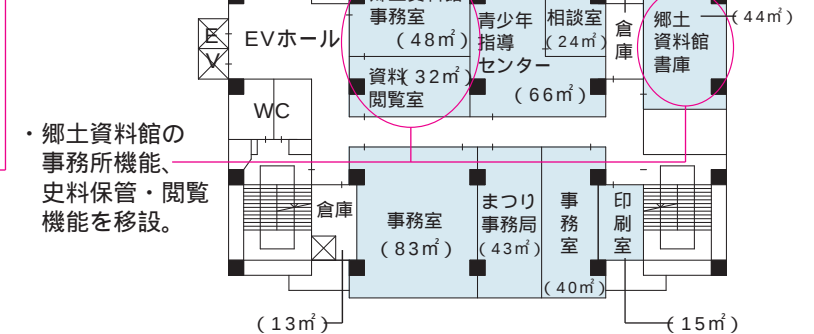
- ・子ども活動等での屋外の広場空間と屋内の施設機能との一体的な有効活用。

4 階



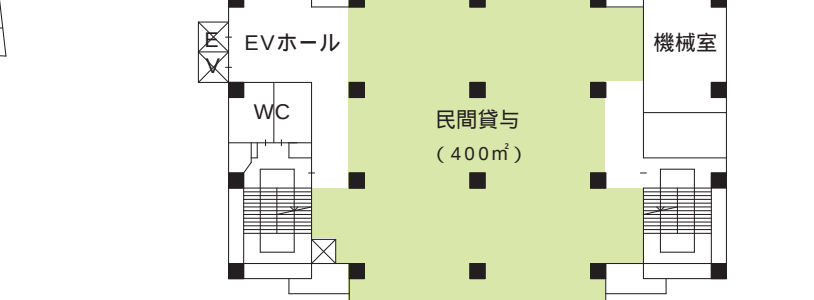
- ・防音設備を完備した専門室を設置。
(21m², 21m², 27m²)

5階

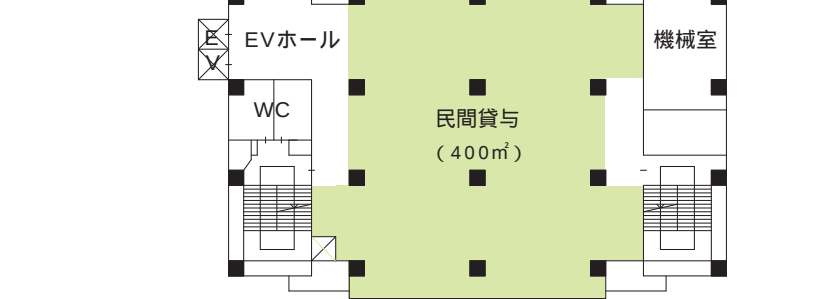


- ・郷土資料館の事務所機能、史料保管・閲覧機能を移設。

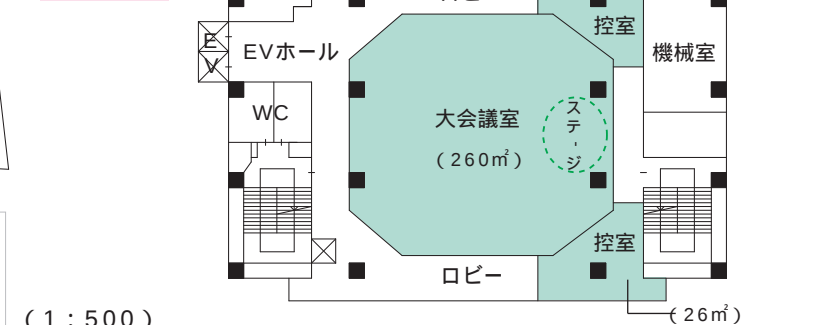
6階



7 階



8階

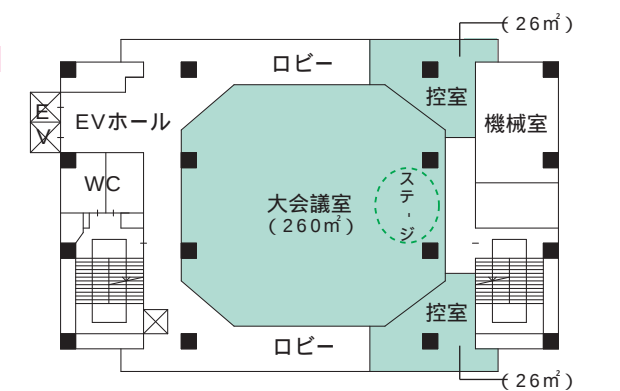


(1 : 500)

■ 凡例

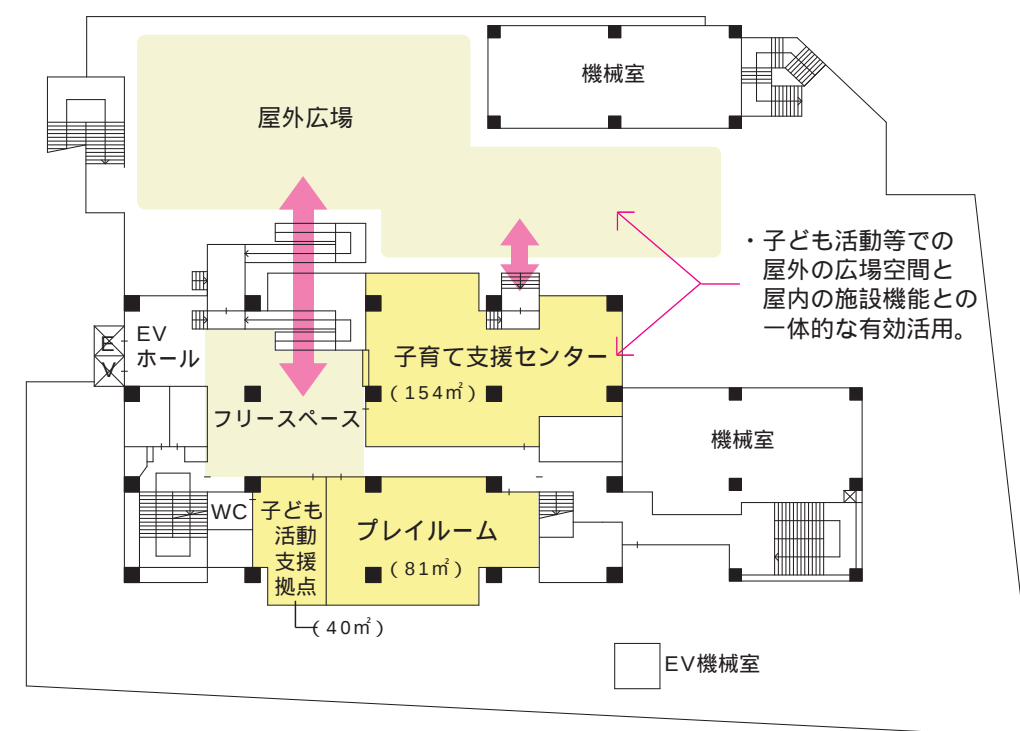
		文化活動用貸床		店舗			郷土資料館		情報スペース
		民間貸与		店舗（外向）		郷土資料館バックヤード			
		事務所		子育て・子ども活動		フリースペース			

8階



- ・子ども活動等での屋外の広場空間と屋内の施設機能との一体的な有効活用。

8階



■ 凡例

			文化活動用貸床		店舗
			子育て・子ども活動		店舗（外向）
			フリースペース		情報スペース
			民間貸与		
			事務所		

(1 : 500)

地下1階再配置レイアウト策定に関する検討

現状の利用状況から見た再配置案の検証

■ 稼働率から見た施設利用の合理化

【現在の用途・規模】

	用途	規模	収容人数
3階	市民ギャラリー	302	-
4階	会議室1	67	30
	会議室2	63	30
6階	多目的室全コーナー	375	120
7階	会議室1	66	30
	会議室2	66	30
	会議室3	40	20
	会議室4	90	60
	和室	40	30
8階	会議室	232	200

再配置案では、他の機能に置き換わる

再配置レイアウトのイメージ案では、現状の4階にある収容人数30人規模の会議室が他の機能に置き換わる。また、7階の機能を4階に移設するが、第1案ではその際に一部の会議室が新たな機能に置き換わる。現状の利用状況に影響を与えないよう、会議室の機能を確保する方法として、会議室の稼働率を高める効率的な利用プログラムを組むことに加え、**地下1階に新設するサークルルームに可動間仕切りを設置して、会議機能にも対応させる**といった対策を検討している。下の図に示す通り、6階多目的室（サークルルームに機能移設）は現在でも稼働率が5割程度であり、特に平日午前中は利用率が低いため、会議機能との組み合わせは検討できるものと考えられる。

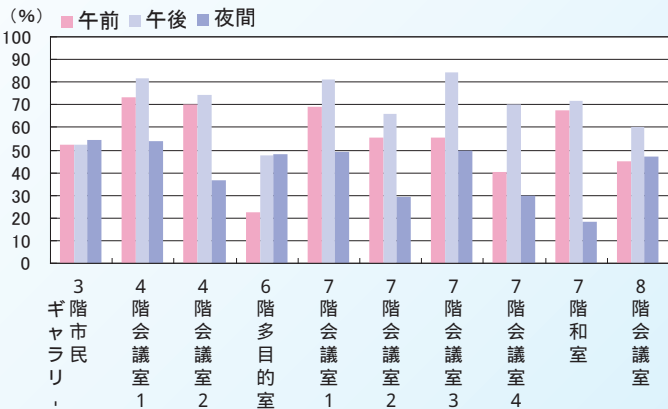
■ 利用者数から見た集客性の検討

下の図に見るように、市民ギャラリー、6階多目的室、7階会議室4、8階会議室等で行われる活動には、1回につき多くの人数が参加する。今回の再配置計画において、市民ギャラリー、多目的室等の機能を**地下1階に一体的に配置することで、高い集客力を持つ利用が見込まれる施設が集約**する。この状況を活かしつつ、稼働率を向上させるためには、**空間の有効利用や活動プログラムの合理化を図る**必要がある。第2案の「フリースペース」は、限られた場所を有効活用し、必要に応じて各々の施設の一体的利用が可能となるような空間として検討している。

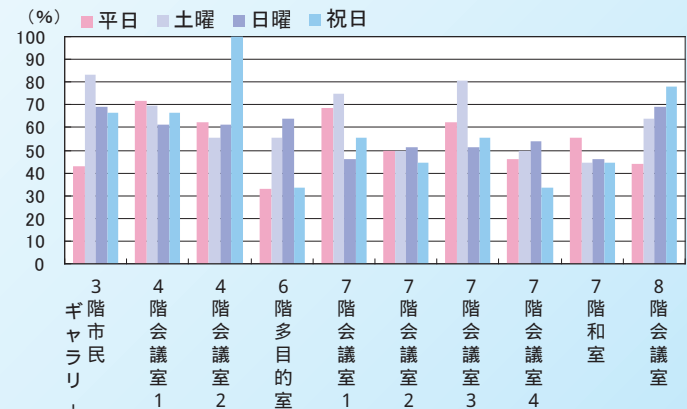
【サンプラザ内公共施設の利用状況 平成15年度】

生涯学習ネットワーク実績報告書 平成15年度版 参照

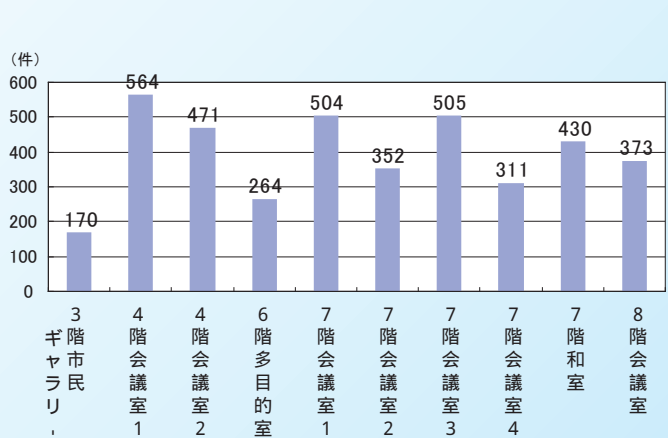
①年間平均稼働率（時間帯別）



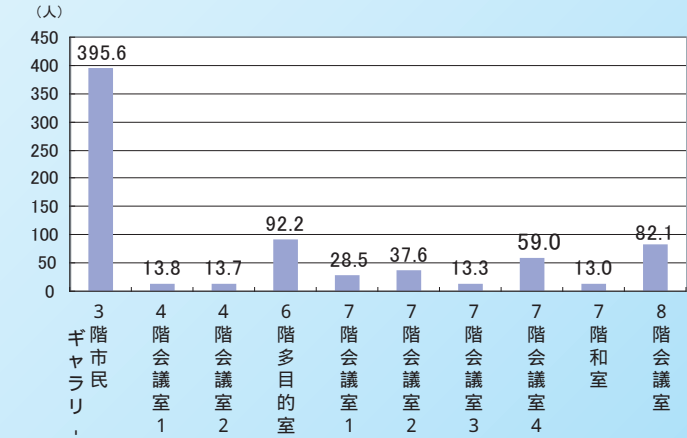
②年間平均稼働率（平日・土日祝日別）



③年間利用件数



④1件あたりの平均利用者数



再配置レイアウト策定にあたって

■ 第1案及び第2案の比較検討

	メリット	デメリット
第1案	- 郷土資料館という主体性（目的性）のある施設があり、「まちの顔」としての魅力づけが可能である。これをベースに施設計画、運営計画を組み立てることができる。 - 郷土資料館とタウンインフォメーションスペースの連携を取ったソフトを組むことで、箕面のまちなりたちを含む地域情報を、より充実した資料で紹介でき、来街者に対する広域PRの要素が充実する。 - 市民ギャラリー、サークルルーム、郷土資料館が同フロアに集約されることで、第2案に比べてより人が集う状況がしやすい。	1フロアに配置する機能が第2案よりも多いため、利用の仕方に合理化を図る必要がある。 - 郷土資料を地階に収蔵する上で、温度、湿度を一定に保つための空調の運転や、特殊な消火設備等が必要になるため、第2案に比べて整備・運営面でのコスト増が考えられる。
第2案	各機能に割り当てる面積が広く、余裕のある配置構成が取れる。 フリースペースがあり、市民ギャラリーとの空間的な連続性によって、必要に応じて一体的な利用ができる。 - 利用目的を固定したスペースが少ないので、柔軟な使い方が工夫できる。	貸床が主体となるため、「まちの顔」としての魅力づけが難しい。貸床は活動主体がない時間帯は空き室となる。施設を活性化させるには、各部屋の稼働率を高め、一定以上を維持しなければならない。 - 利用目的を固定したスペースが少ないことで、施設計画、運営計画の際に具体的なイメージの組立てが困難であり、核となる施設がないため、集客性の向上を図りにくい。

この度のパブリックコメントは、現時点でのみのおサンプラザ1号館の公共施設再配置検討の方向性を、本計画に示すコンセプトに基づき、比較検討できる形で2つの再配置案として提示している。2つの案は上の表に示す通り、それぞれについてメリットとデメリットが考えられる。これらをふまえ、この度のパブリックコメントにおいて2つの案について広く市民の方から意見をいただいた上で、内容を精査し、最終的な配置計画を決定する予定としている。

MEMO